

# 2020年12月期 第1四半期 決算説明資料

---

メディカル・データ・ビジョン株式会社  
(証券コード：3902)

2020年5月13日

<b>1</b>	<b>2020年12月期 第1四半期 決算概要</b>	-----	<b>3</b>
<b>2</b>	<b>2020年12月期 第2四半期以降の施策</b>	-----	<b>11</b>
<b>3</b>	<b>参考資料</b>	-----	<b>18</b>

## 2020年12月期 第1四半期 決算概要

## < 1Q業績 > 売上高・利益とも過去最高を更新 年間進捗率も順調

**売上高 1,042 百万円**

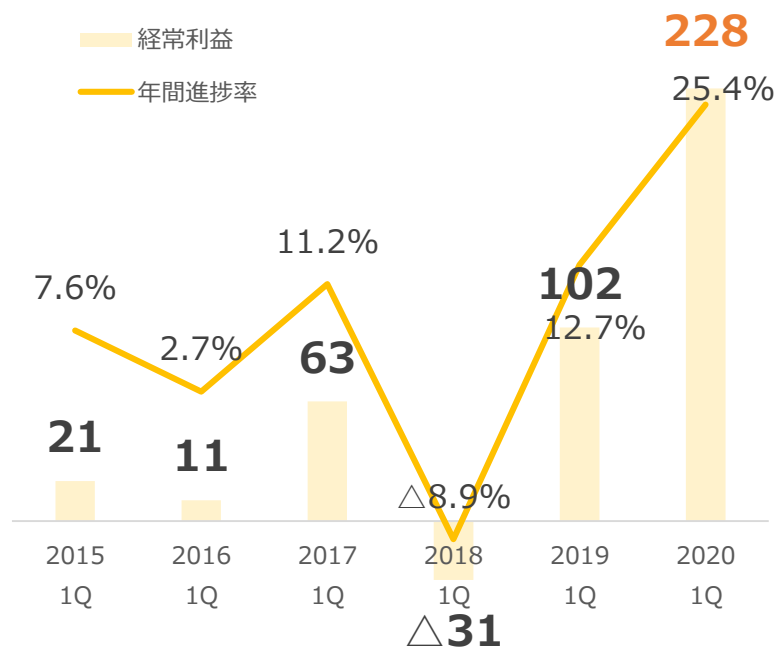
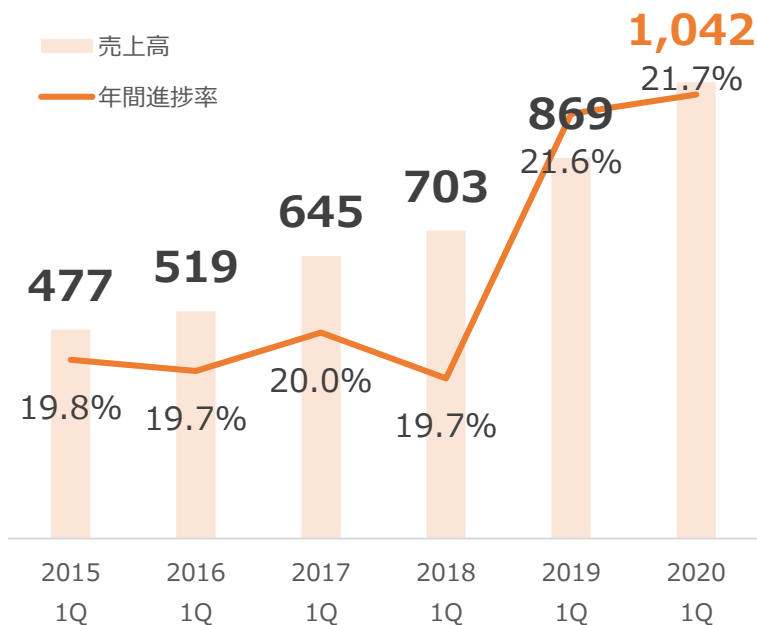
前年同期比 +20.0%

年間進捗率 21.7%

**経常利益 228 百万円**

前年同期比 +123.1%

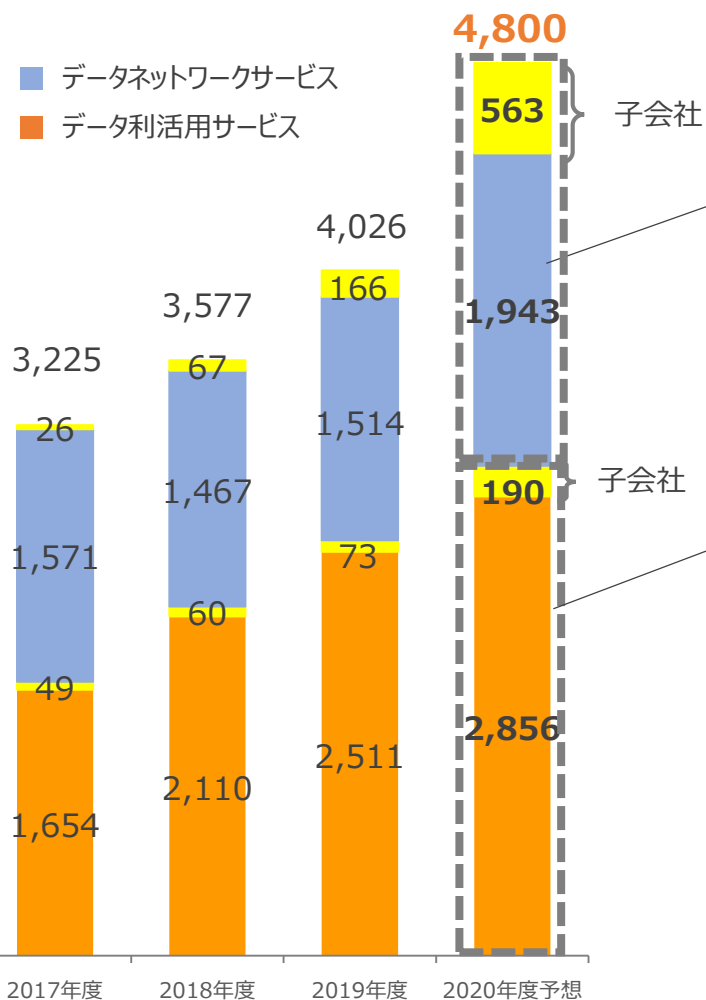
年間進捗率 25.4%



## <通期業績>

## 業績見通し変更なし

COVID-19拡大による影響 ⇒ 現時点で重大な影響はなし



### データネットワークサービス

✓ 影響は限定的 (売上の約6割がストック型)

① **ストック型** ※メンテナンス (月額保守料)

⇒ 影響は軽微

② **フロー型** ※パッケージ (新規システム導入)

⇒ 営業活動停滞が長引いた場合、今後の影響は懸念される

③ **子会社** ※Doctorbook, メディカルドメインほか

⇒ 営業活動停滞が長引いた場合、今後の影響は懸念される

### データ利活用サービス

✓ 影響は軽微

### 追加施策

✓ 547万人の健保データ提供開始によりデータ利活用サービスの成長加速

✓ ニーズにマッチしたサービス展開を加速

① **オンライン診療支援**

② **COVID-19情報提供**

③ **医療従事者負担軽減**

# 2020年12月期 第1四半期 業績



単位：百万円

	2019年度 1Q	2020年度 1Q	前年 同期比	2020年度 見通し	2020年度 進捗率
売上高	869	1,042	+20.0%	4,800	21.7%
データネットワークサービス 売上高	359	404	+12.5%	1,943	20.8%
データ利活用サービス 売上高	509	638	+25.2%	2,856	22.3%
経常利益	102	228	+123.1%	900	25.4%
経常利益率	11.8%	21.9%	+10.1P	18.8%	—
当期純利益	68	151	+120.5%	600	25.3%

	2019年度 1Q	2020年度 1Q	増減数	2019年 12月末	2020年 1Q獲得数
診療データ患者数	2,707万人	3,098万人	391万人	2,984万人	114万人
リアルタイム診療データ 患者数	1.2万人	82.4万人	81.2万人	82.3万人	1,000人
Clinical Cloud 臨床医アカウント数	—	31,500人	31,500人	22,346人	9,154人

# 2020年12月期 第1四半期\_売上高構成表

## データネットワークサービス

単位：百万円

- ・医療機関の診療報酬改定対応の影響による売上減も、2018年度診療報酬改定時と同等程度の業績見通しとなることは織り込み済み（2018年度1Q 68百万円）
- ・COVID-19による訪問規制による商談件数減、納品・検収減
- ・子会社の成長（Doctorbook医科事業、MDIの新規連結効果）

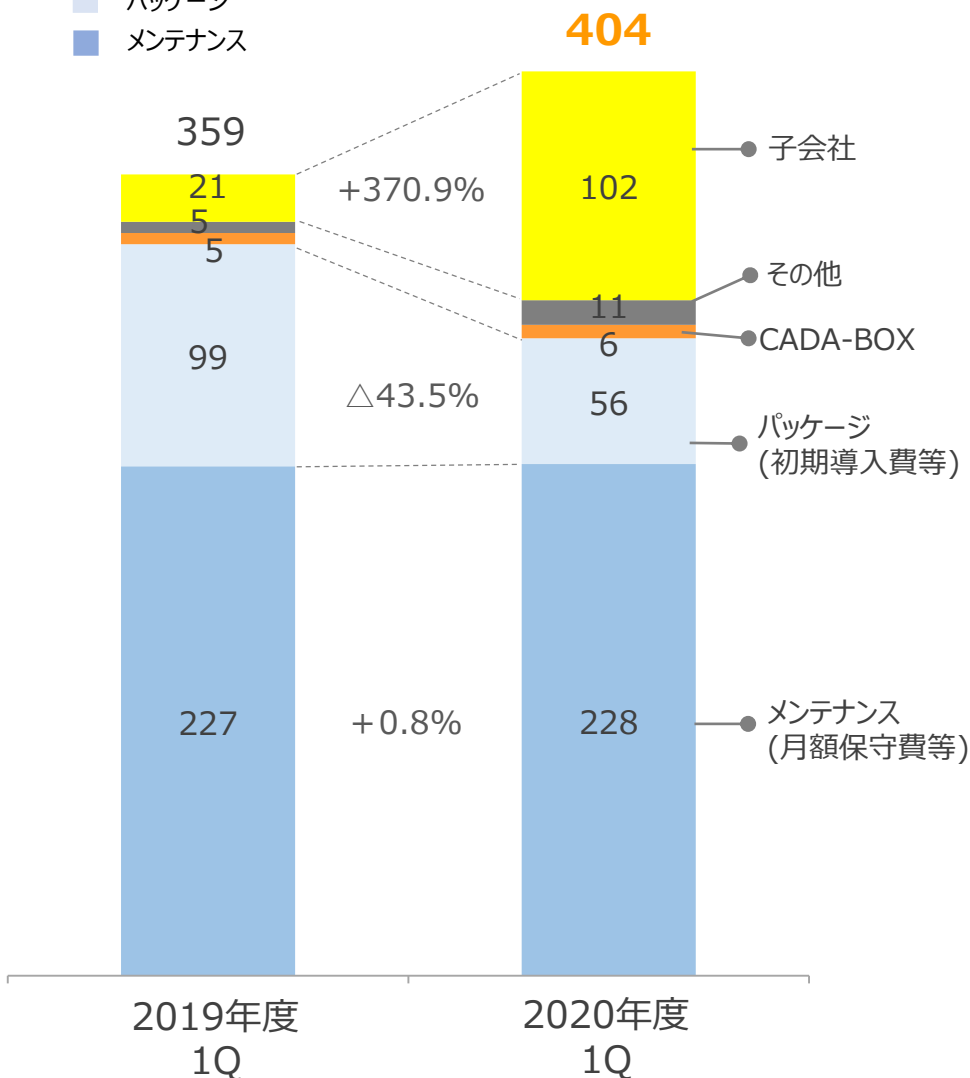
## データ利活用サービス

- ・アドホックが堅調に伸長、計画どおりの高い成長率を維持
- ・黒字化に注力した子会社の成長（MDVトライアル データを活用した治験事業）

		2019年度 1Q		2020年度 1Q		前年同期比
			売上高比		売上高比	
<b>ネットワーク</b>	<b>合計</b>	<b>359</b>	<b>41.4%</b>	<b>404</b>	<b>38.8%</b>	<b>+12.5%</b>
	メンテナンス	227	26.1%	228	21.9%	+0.8%
	パッケージ	99	11.4%	56	5.4%	△ 43.5%
	CADA-BOX	5	0.6%	6	0.6%	+13.6%
	その他	5	0.7%	11	1.1%	+90.2%
	子会社	21	2.5%	102	9.8%	+370.9%
<b>データ利活用</b>	<b>合計</b>	<b>509</b>	<b>58.6%</b>	<b>638</b>	<b>61.2%</b>	<b>+25.2%</b>
	MDV analyzer	88	10.2%	96	9.3%	+9.3%
	アドホック	401	46.2%	509	48.9%	+26.9%
	子会社	19	2.3%	31	3.1%	+61.2%
	<b>売上高</b>	<b>869</b>	<b>100.0%</b>	<b>1,042</b>	<b>100.0%</b>	<b>+20.0%</b>

- 子会社
- その他
- CADA-BOX
- パッケージ
- メンテナンス

## 前年同期比 + 12.5%



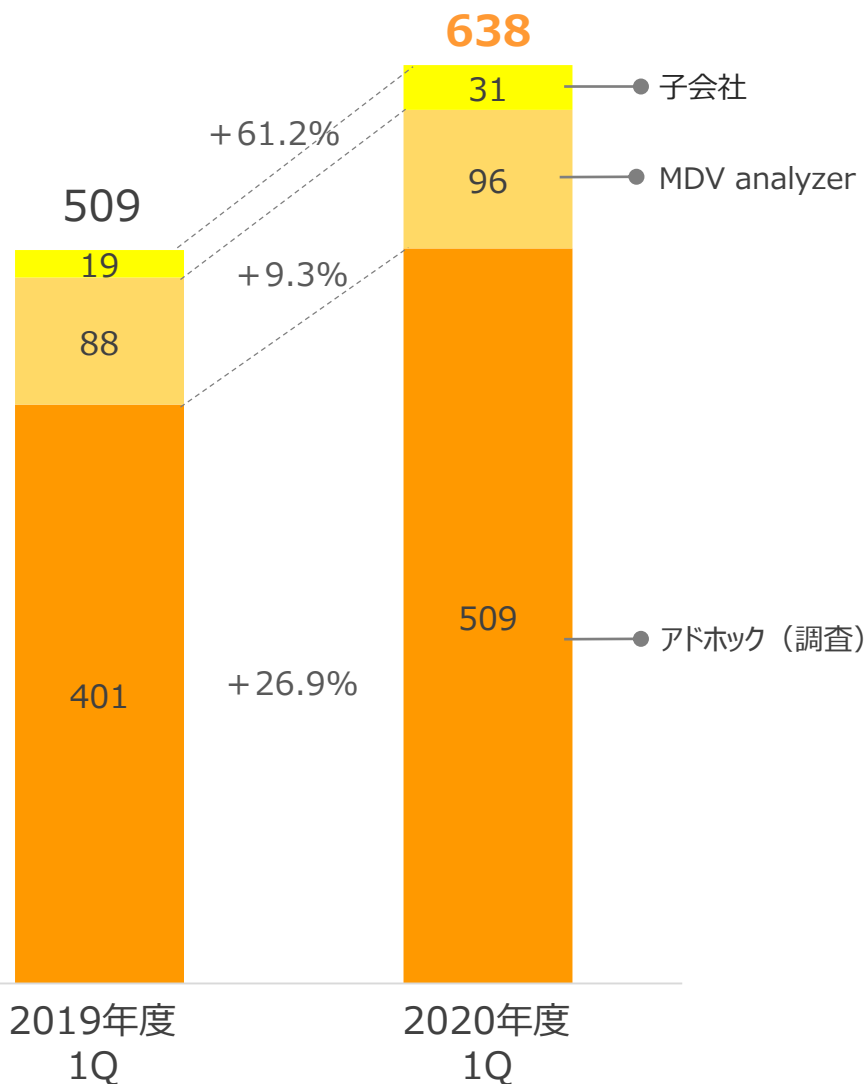
- **パッケージ**  
訪問規制による商談件数の減少
- **メンテナンス**  
計画通り進捗。経済変動の影響小さく、2Q以降も計画通りの進捗を見込む
- **子会社**
  - ・Doctorbook 医科事業の伸長
  - ・MDI 今期から新規連結による効果



- 子会社
- MDV analyzer
- アドホック

## 前年同期比

# +25.2%



- MDV analyzer  
18社（前年同期比+1）

- アドホック調査サービス  
全領域提供11社（前年同期比+4）

質と量を兼ね備えた日本で唯一無二の  
診療データにより、高い成長率を維持

- 子会社（MDVトライアル）  
データを活用した治験事業続伸

# 2020年12月期 第1四半期\_コスト分析

単位：百万円

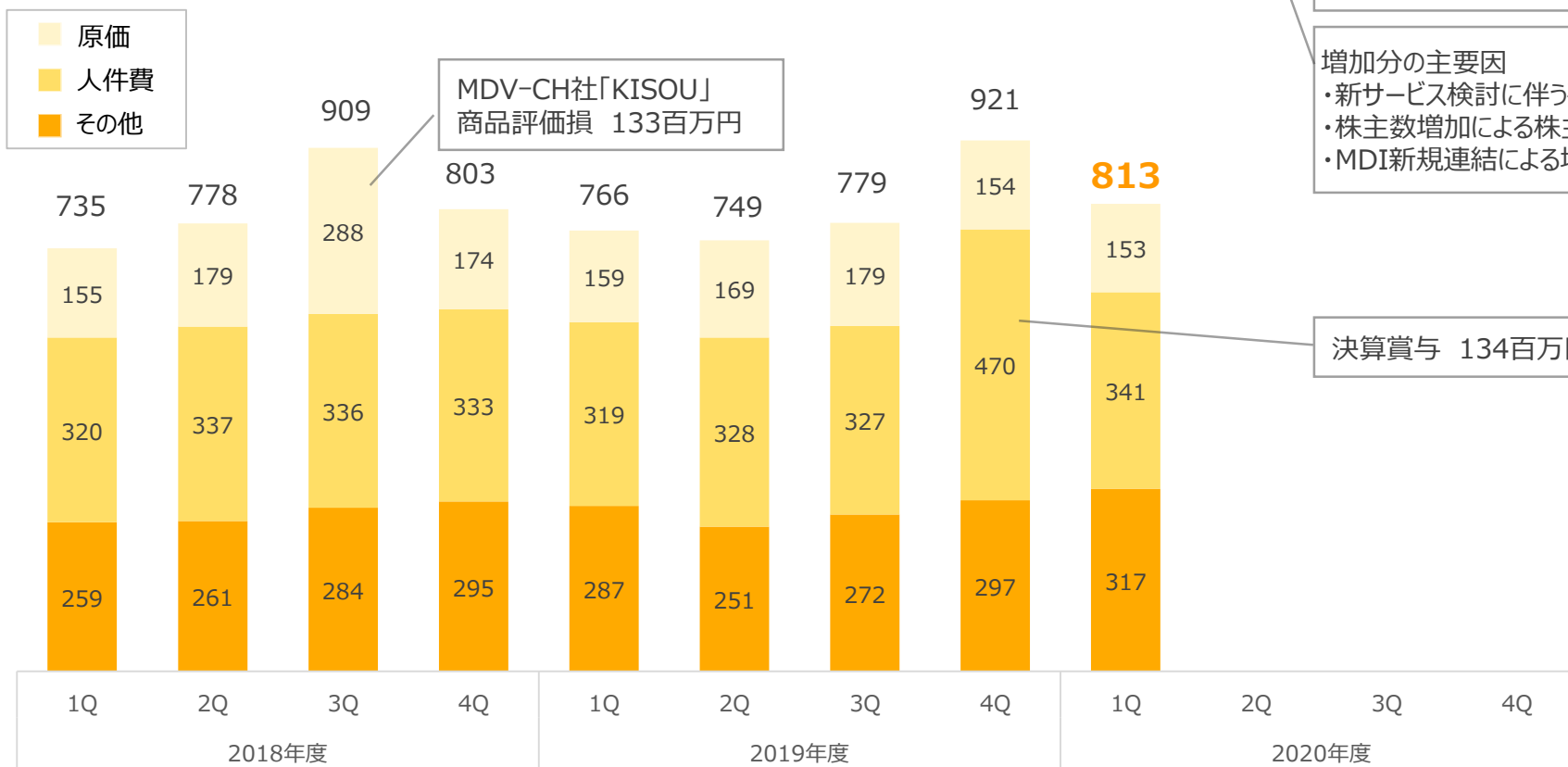
	2019年度 1Q	2020年度 1Q	増減額
原価	159	153	△5
人件費	319	341	22
その他	287	317	30
合計	766	813	46

売上原価率  
18.3%→14.8% △3.6P  
利益率高いデータ利活用サービスの成長により原価率改善

- ・製薬企業向け営業人員を中心とした採用
- ・MDI新規連結による増加

- 増加分の主要因
- ・新サービス検討に伴う研究開発費
  - ・株主数増加による株主優待
  - ・MDI新規連結による増加

決算賞与 134百万円



## 2020年12月期 第2四半期以降の施策

## 2020年テーマ

## 変化・関係 －新医療データ活用の事業開始－

### 目標

#### リアルタイム診療データ規模拡大

- ・実証テストの成果より新サービスのローンチを計画
- ・病院の「働き方改革」、「安全性担保」、「増収」などに貢献
- ・リアルタイム診療データを150万人超まで拡大

#### リアルタイム診療データの活用

- ・製薬会社：画像、血圧など新たなデータを活用した分析
- ・治験：データを活用したスクリーニングの次フェーズへ展開

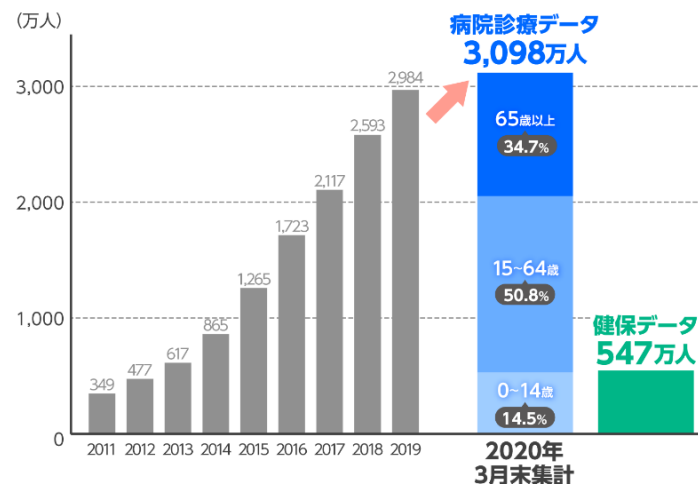
#### 追加施策

- ・547万人の健保データ提供開始によりデータ利活用サービスの成長加速
  - ・ニーズにマッチしたサービス展開の加速
- ① オンライン診療支援 ② COVID-19情報提供 ③ 医療従事者負担軽減

■ 健保データを活用した分析サービスの開始（4月～）（4月22日 NEWS RELEASE）

# 547万人

の健保組合保有データを取得



## さくらデータバンク

DPCデータ

3,098万人

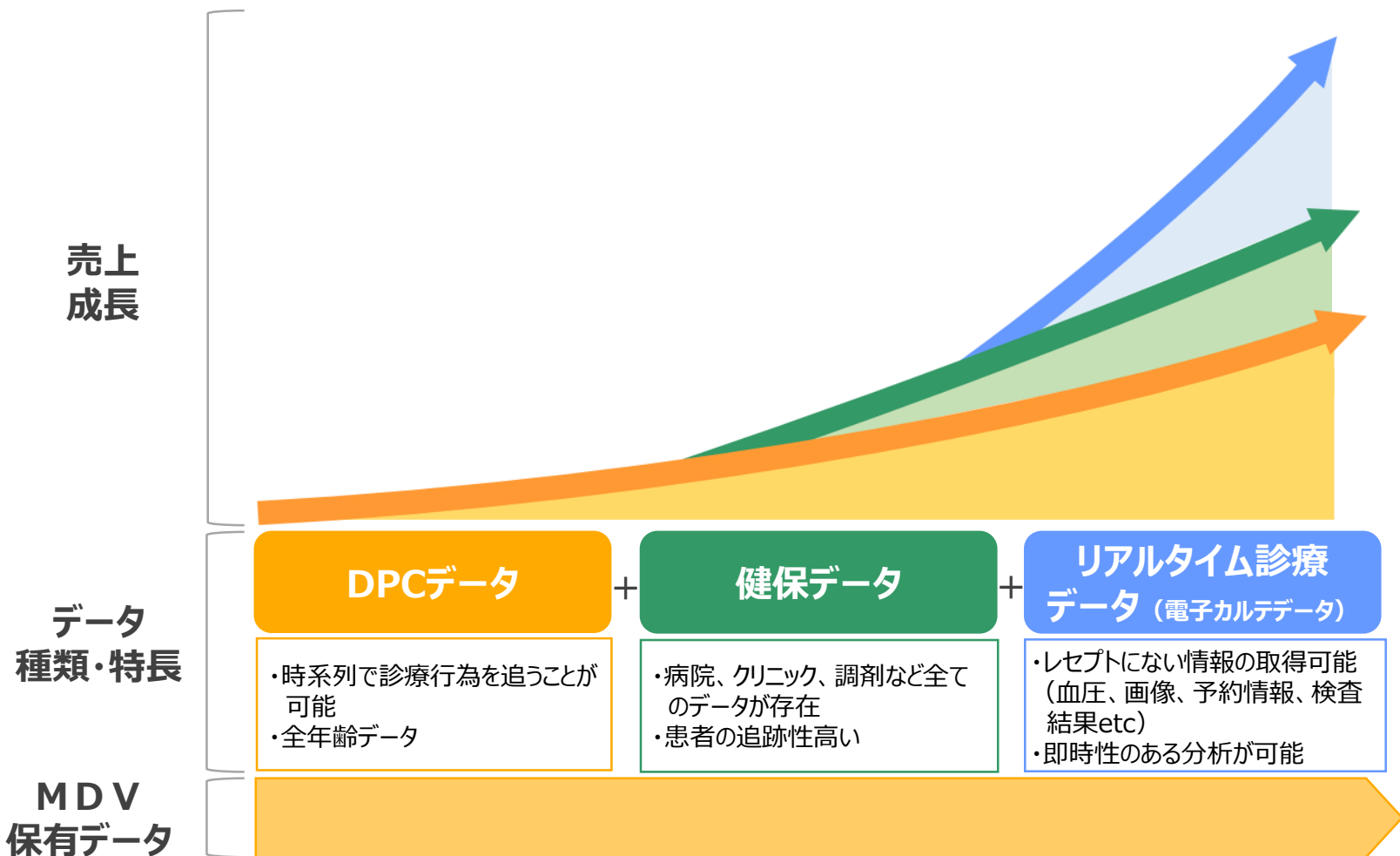
リアルタイム診療データ

オプトイン	オプトアウト
2.3万人	80万人

健保データ

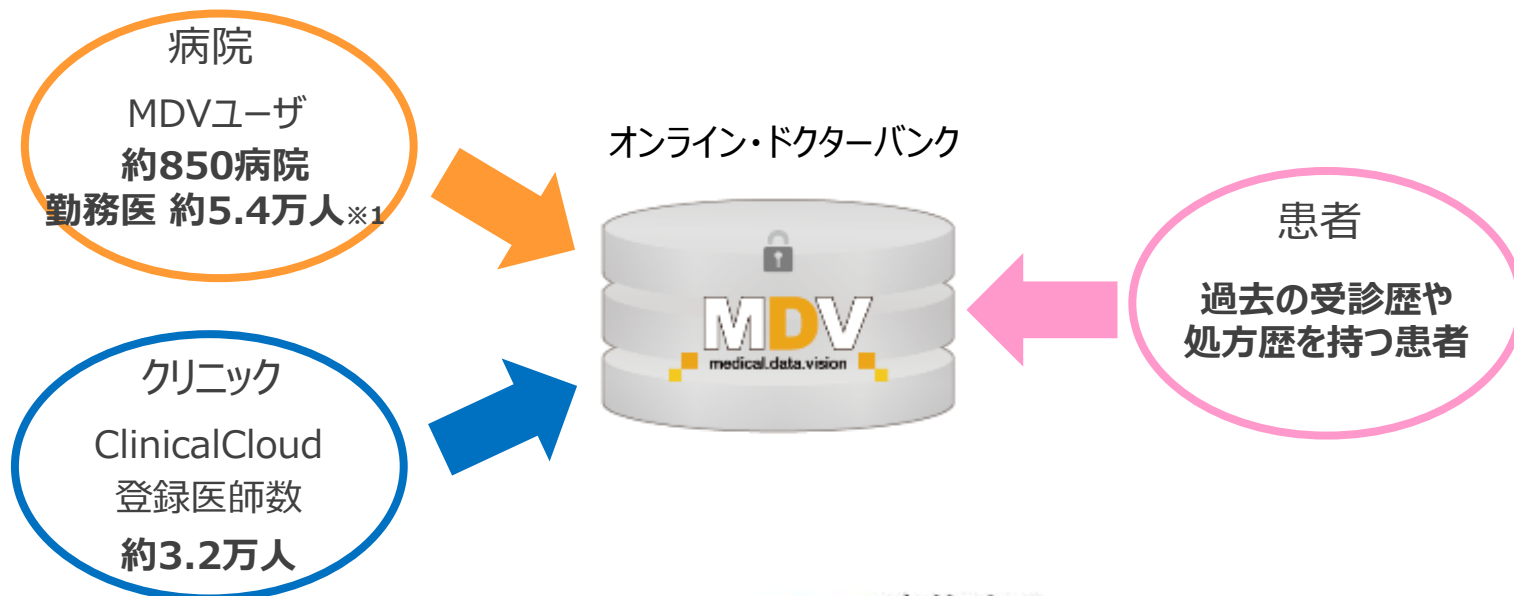
547万人

## 圧倒的な量・質の診療データで あらゆるニーズに対応、成長を加速

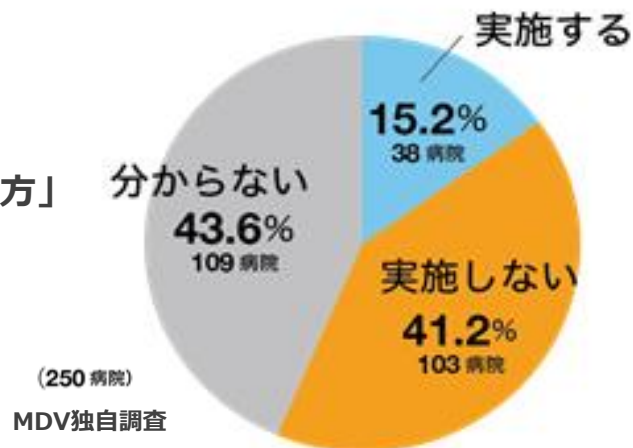


## ① オンライン診療支援

### 「オンライン・ドクターバンク」の構築 (5月11日 NEWS RELEASE)



「オンライン診療に対する考え方」  
についてのアンケート結果



※1 算出方法  
一般病院の100床当たりの常勤換算従事者数16.1人(※2) × 4  
(MDVユーザ平均病床数400床) × 850病院

※2 厚生労働省 平成29年(2017)医療施設(静態・動態)  
調査・病院報告の概況

## ① オンライン診療支援

✓ 当社グループの強みを活用したサービスを積極的に展開

- ① 医療ビッグデータの保有と活用ノウハウ
- ② PHR(パーソナルヘルスレコード)システムの保有
- ③ 医療機関・医師との強固なネットワーク
- ④ 製薬会社・医薬品卸会社との強固なネットワーク

✓ 当社の対応状況

オンライン診療のバリューチェーン

実施決定

実施検討中

医師ネットワーク						
患者ネットワーク						
PHRシステム						
オンライン診療ツール (PC・スマホ)						
医師選択	予約		診療	決済	薬剤	
検索・比較	初診	再診			処方	配送

✓ トピックス

**2020年4月～**  
「ポケットカルテ」と連携によるPHR機能の強化

当社PHRサービス「カルテコ」と特定非営利活動法人日本サステイナブル・コミュニティ・センターの「ポケットカルテ®」と連携強化を決定しました。



**2020年6月(予定)～**  
「医師バンク」構築

PHRシステムを活用し、オンライン診療を通じて患者に適切な医療が提供されるよう支援します。





## ② COVID-19情報提供

### 「新型コロナウイルス緊急レポート」のリリース

- ・2020年1～4月と2019年1～4月のデータを比較し、新型コロナウイルスにおける影響を可視化
- ・自院分析だけでなく**他院との比較**が可能

#### ■ 内容

- ・100床当たりの収入金額の推移（入院・外来）
- ・延べ患者数の推移（入院・外来）
- ・前年対比の増減比率の推移（入院・外来）
- ・看護必要度の推移（入院）
- ・疾患構成変化



※イメージ画像

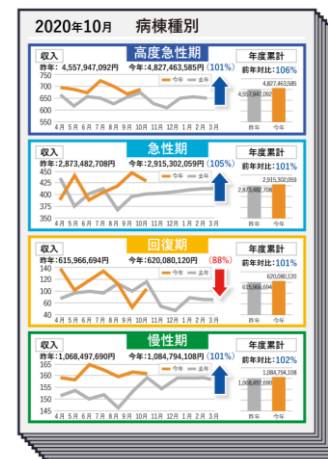
## ③ 医療従事者負担軽減

### 病院経営レポート「Vision」のリリース

新型コロナウイルス感染症対応で疲弊した医療従事者の事務負担軽減、患者の減少による病院経営への影響に対する分析レポートを提供

高度急性期や急性期、回復期・慢性期の病棟、外来の経営状況や出来高請求病院の経営状況が把握可能

帳票は適宜追加を予定



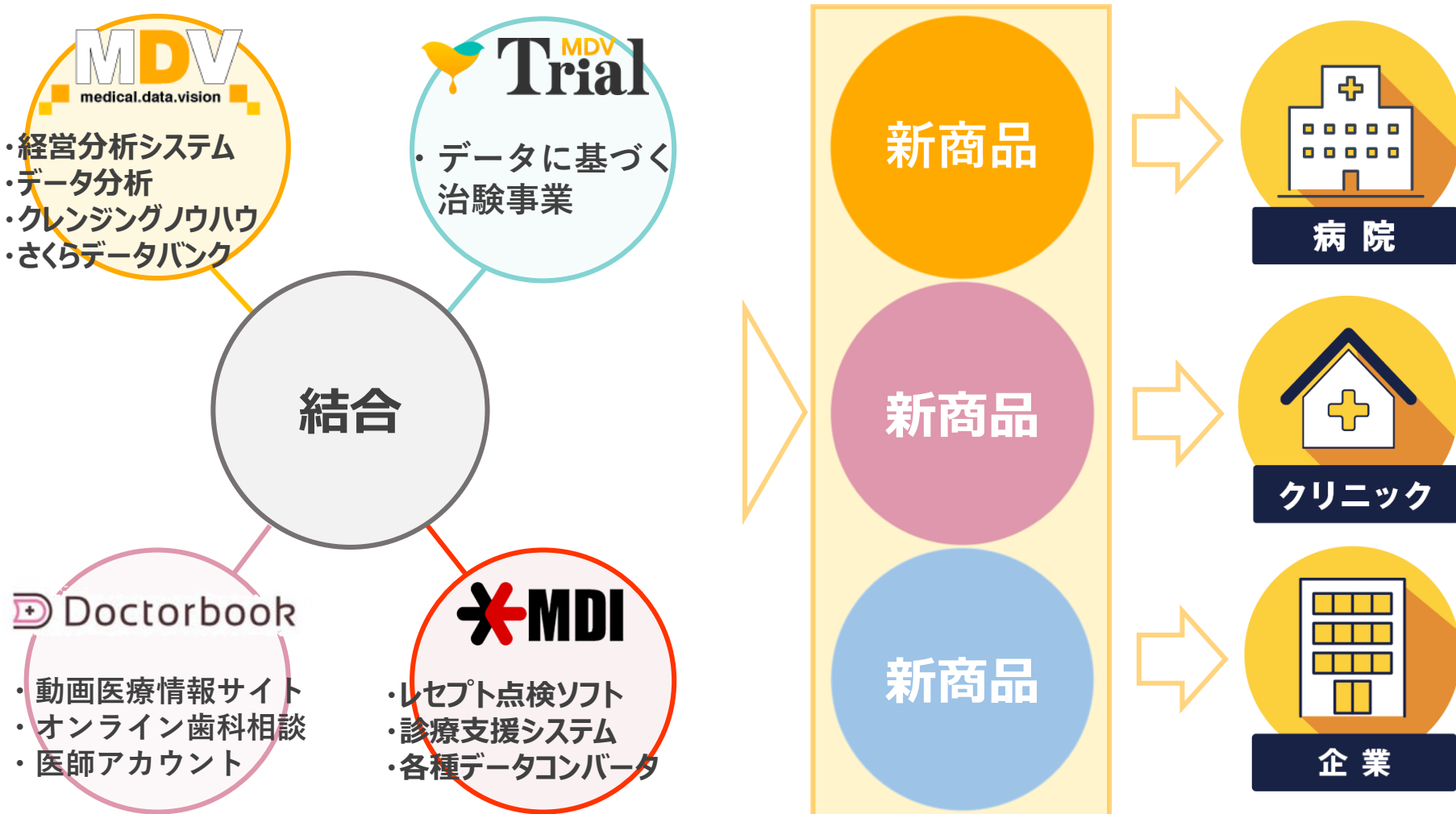
※イメージ画像

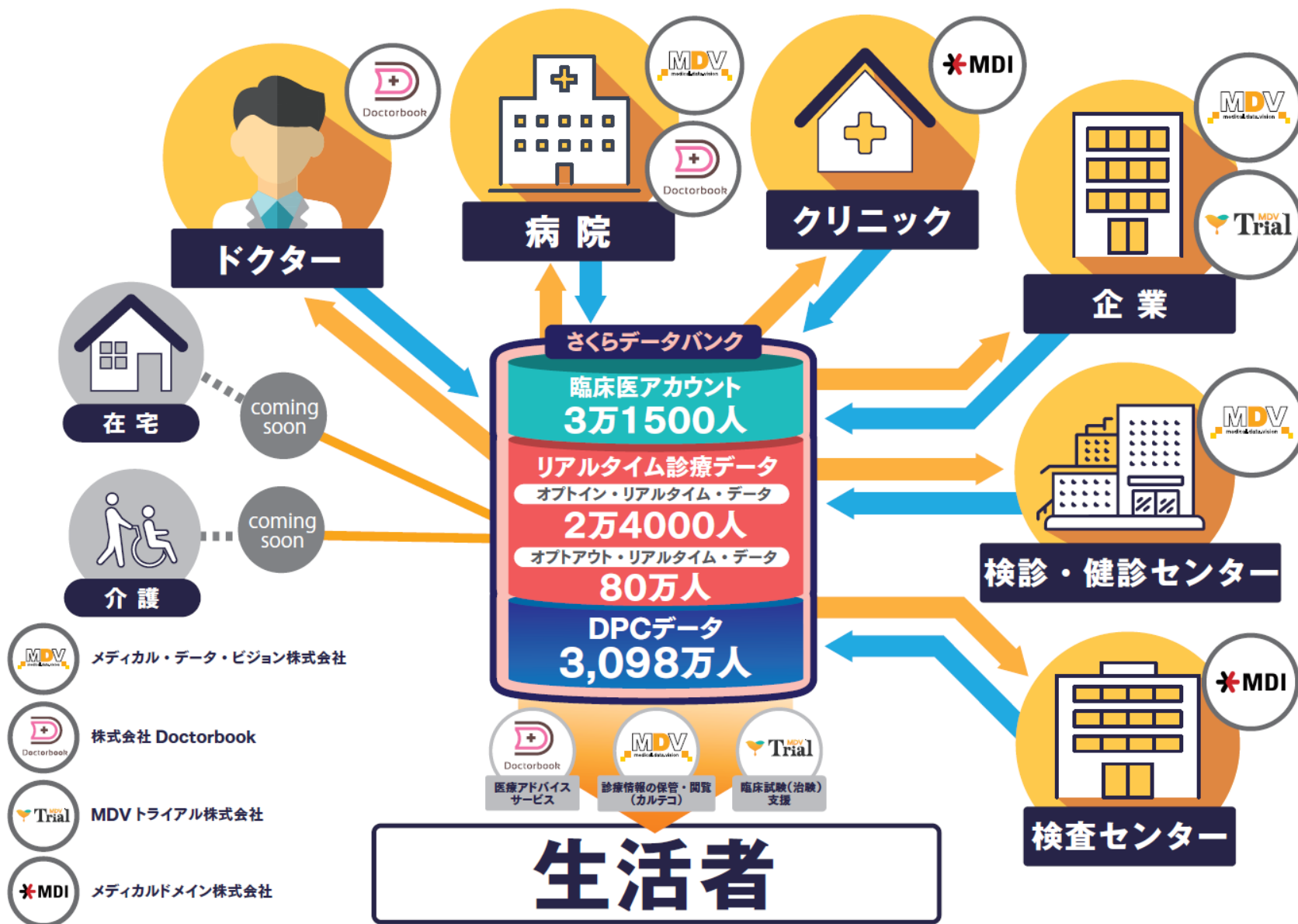


## 參考資料

# 2020年12月期\_グループ戦略：各社商品の有機的結合

- ・グループ各社の商品・サービス、所有する技術・ノウハウなどを結合し、新商品化
- ・代理店営業部隊 + 既存営業部隊がグループの全商品・サービスを販売





## データネットワークサービス

医療・健康情報を集積



病院



検診・健診センター

システム提供

システム利用料

二次利用許諾・同意  
を得た医療・健康情報



さくらDB



データ分析

※二次利用許諾を得た情報のみ

データ分析費用



医療・健康情報

## データ利活用サービス

医療・健康情報の  
分析サービスを提供



企業



生活者

# データ利活用ビジネスで大きな成長を目指す

## 【データネットワークサービス】

商品名	商品概要	価格
EVE	出来高請求とDPC請求の差額分析、患者数・在院日数・医療資源などの各種指標を疾患別・症例別に分析かつ他院との比較（ベンチマーク）ができる。 他院との比較ができるベンチマーク機能を活用して自院の傾向や特徴を明らかにすることで、強み弱みを把握し、病院経営の根幹である診療方針の具体的な検討が可能。	初期導入費用等：400万円 月額保守費用等：5万円/月
Medical Code	DPCデータや電子レセプトデータなどの標準フォーマットデータを活用し、病院原価計算や診療単価の向上等、病院経営を多角的に支援。 ユーザ登録は無制限のため、院内での円滑な情報共有、意識改革・改善行動を促進し、経営改善が可能。	初期導入費用等：820万円 月額保守費用等：10万円/月
CADA-BOX	患者自身が診療情報の一部を保管・閲覧できるWEBサービス「カルテコ」と、医療費専用後払いサービス「CADA払い」を融合した、既存の電子カルテと連結させる病院向けのシステム。 患者は無料で利用可能。	初期導入費用等：2,000万円 月額保守費用等：50万円/月

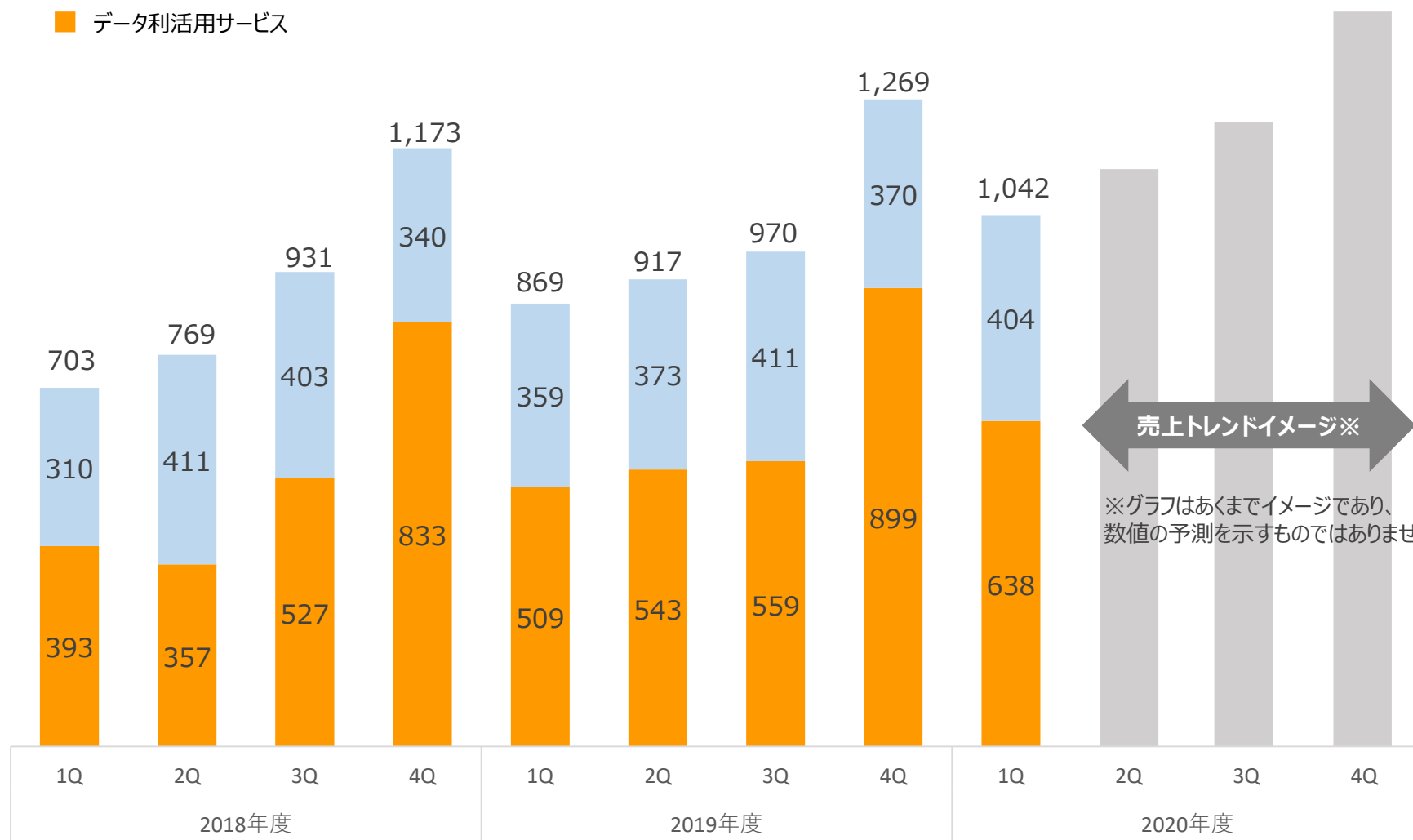
## 【データ利活用サービス】

商品名	商品概要	価格
MDV analyzer	日本最大規模の診療データベースをもとに、お客様ご自身で患者数や処方日数、処方量などを容易に分析していただけるWEB分析ツール。 疾患や薬剤だけでなく、手術や検査など実際の診療行為を起点とした多角的な分析も可能。	年間2,000万円
アドホック調査サービス	お客様のご要望に応じたオーダーメイドのレポート等をご提供。	平均単価350万～400万円/1案件

# 四半期毎の売上高推移（サービス別内訳）

単位：百万円

- データネットワークサービス
- データ利活用サービス



売上トレンドイメージ※

※グラフはあくまでイメージであり、数値の予測を示すものではありません。

## ① オンライン診療支援

### NEWS RELEASE

2020年4月8日  
メディカル・データ・ビジョン株式会社 (東証一部 3902)



### ポケットカルテ®とオンライン診療の推進で連携強化 PHRで医療者に患者情報提供

医療情報のネットワーク化を推進するメディカル・データ・ビジョン株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長 岩崎博之、以下「MDV」)は、自分で健康・医療情報を保管・閲覧できる「ポケットカルテ®」を運営する特定非営利活動法人日本サステナブル・コミュニティ・センター(京都市、代表理事 新川達郎、以下「SCCJ」)と、人が一生涯の健康・医療情報を自ら管理するPHR(パーソナル・ヘルス・レコード)を活用して新型コロナウイルス感染拡大に伴い時限的に規制緩和されるオンライン診療を推進するために連携を強化していくことを決めましたので、お知らせします。

① ポケットカルテ



※SCCJが運営する「ポケットカルテ®」WEBサイト  
(表示内容はイメージ)

② カルテコ



※「カルテコ」をPCで表示した時の画面  
(表示内容はイメージ)

「ポケットカルテ®」は、独立行政法人国立病院機構京都医療センター医療情報部長の北岡有喜博士が考案・開発した個人向け健康情報管理サービス基盤です。2008年6月にサービスを開始、現在の利用者は約6万1500人(2020年1月末時点)。患者は電子化・一元管理された健康・医療情報をスマートフォン(スマホ)などで簡単に閲覧できます。特定健診結果も保管でき、それをもとに保健指導を受けることができます。また、紹介状(診療情報提供書)や入院退院サマリーの管理ができるほか、「電子版お薬手帳」の機能も備えています。

MDVは患者がスマホなどで健康・医療情報を閲覧できるWEBサービス「カルテコ」を開発、病院向けソリューション「CADA-BOX」のメインサービスとなっています。「カルテコ」では医用画像や健診結果のほか、自分で計測した血圧などのバイタルデータの保管・閲覧が可能です。現在、全国7病院でサービスが稼働しており、利用者は約2万2000人(2019年12月末時点)。SCCJとMDVのそれぞれのサービスは国の医療情報システムの安全管理に関するガイドラインなどに準拠しており、病院情報システム等から発生した健康・医療情報を収集、患者からの同意取得の上で、自身が健康・医療情報を保管・閲覧できる仕組みを提供しています。

安倍晋三首相は7日夜に緊急事態宣言を発出、併せて緊急経済対策を公表しました。同対策ではオンライン診療について、受診歴がない初診患者に電話や情報通信機器を使ったオンライン診療を認めました。この規制緩和で既往歴や処方歴など、患者のバックグラウンドを把握せずに診療することになり、これに対して不安を抱える医療者は少なくありません。ポケットカルテ®とカルテコがその不安を軽減し、オンライン診療の推進につながると期待しています。

SCCJとMDVは、ポケットカルテ®とカルテコが連携するサービスを開発・提供することで合意しました。今後、オンライン診療に携わる医療者に対して、PHRがエビデンスに基づいた患者情報を入力する最適なツールであることを周知するとともに、患者がオンライン診療をより容易に受けられるよう、さらなる機能強化を図っていきます。

### NEWS RELEASE

2020年5月11日  
メディカル・データ・ビジョン株式会社 (東証一部 3902)



### オンライン診療支援で「医師BANK」を構築へ 医療機関・医師が不安なく診療できる環境整備

医療情報のネットワーク化を推進するメディカル・データ・ビジョン株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長 岩崎博之、以下「MDV」)は、全国の医療機関や医師が不安なくオンライン診療に取り組めるよう「オンライン・ドクターバンク」を構築します。過去の受診歴や処方歴などを持つ患者が、同バンクに登録した医療機関や医師のオンライン診療を受けられるようになります。人が一生涯の健康・医療情報を自ら管理できるPHR(パーソナルヘルスレコード)システムを活用し、6月めどに第1弾のサービスを提供します。

「オンライン・ドクターバンク」には、オンライン診療を実施する医療機関や医師に登録してもらい、働く世代で医療機関に行く時間のない人や、慢性疾患で定期受診をして処方してもらいのが困難になった人などが、同バンクに登録した医療機関や医師のオンライン診療を受けられるよう橋渡しをします。MDVはオンライン診療について、患者情報が乏しいと適切な医療が提供されないと考え、今回、「オンライン・ドクターバンク」を構築することにしました。

MDVは、患者がスマートフォンなどで健康・医療情報を閲覧できるPHRサービス「カルテコ」を開発、現在全国7病院でこのサービスが提供されています。「カルテコ」では、診療情報、医用画像や健診結果のほか、自分で計測した血圧などのバイタルデータの保管・閲覧が可能です。「オンライン・ドクターバンク」では、「カルテコ」を活用してオンライン診療を後押しする環境を整備します。

③ カルテコ



※「カルテコ」をPCで表示した時の画面  
(表示内容はイメージ)

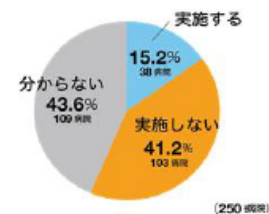
#### ■ 厚労省「患者情報把握した上で診断・処方」

政府は4月7日に緊急事態宣言を発令、併せて新型コロナウイルス感染症緊急経済対策を公表しました。同対策ではオンライン診療について、受診歴がない初診患者に電話や情報通信機器を使ったオンライン診療を認めました。

これに関連して厚労省は10日、「診療の際、できる限り、過去の診療録や診療情報提供書などにより患者の基礎疾患の情報を把握・確認した上で診断や処方を行うこと」とする事務連絡を发出しています。

MDVがオンライン診療について、病院を対象に緊急アンケートをしたところ、回答した250病院のうち、「実施しない」が4割強で、その理由を複数回答で聞いたところ、「環境が整っていない」「診療に対する責任が不明確」「患者情報が少ない」などの意見がありました。

#### 【アンケート結果】



＜本件に関するお問い合わせ先＞

メディカル・データ・ビジョン株式会社 広報：君塚・赤羽  
MAIL: pr@mdv.co.jp TEL: 080-9023-1506



## IRに関するお問合せ

<https://www.mdv.co.jp/contactus/form.php?classification=7>

本資料は、情報提供のみを目的として作成するものであり、当社株式の購入を含め、特定の商品の募集・勧誘・営業等を目的としたものではありません。

本資料で提供している情報は、金融商品取引法、内閣府令、規則並びに東京証券取引所上場規則等で要請され、またはこれらに基づく開示書類ではありません。

本資料には財務状況、経営結果、事業に関する一定の将来予測並びに当社の計画及び目的に関する記述が含まれます。このような将来に関する記述には、既知または未知のリスク、不確実性、その他実際の結果または当社の業績が、明示的または黙示的に記述された将来予測と大きく異なるものとなる要因が内在することにご留意ください。これらの将来予測は、当社の現在と将来の経営戦略及び将来において当社の事業を取り巻く政治的、経済的環境に関するさまざまな前提に基づいて行われています。

本資料で提供している情報に関しては、万全を期しておりますが、その情報の正確性、確実性、妥当性及び公正性を保証するものではありません。また予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、予めご了承ください。